

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

挑戦してみたい！ という気持ちから 起業しました。

株式会社烏骨鶏本舗
代表取締役 石原千照さん



烏骨鶏は国の天然記念物に指定されている非常に珍しい鶏の一種です。卵には栄養価がたくさん凝縮されています。その卵を使ったスイーツを販売する烏骨鶏本舗の代表取締役である石原千照さんに仕事の楽しさや苦労についてお伺いしました。

Q…烏骨鶏本舗とはどういう会社ですか？

烏骨鶏のトータルフーズカンパニーで、おもに、烏骨鶏の卵を使ったスイーツから烏骨鶏にまつわる食品を販売しています。烏骨鶏は捨てるものがなく、卵やお肉も食べられます。骨はスープにして出汁をとったあとパウダーにしてお菓子にいられています。カルシウムたっぷりのお菓子を作っています。

Q…なぜ起業したのですか？

以前、化粧品と健康食品を企画販売する会社でパートとして働いていました。ある部門では烏骨鶏の養鶏もやっていたけれど、卵の販路が見つからず廃棄されていたのです。何とか循環させたいと思い、カステラをつくろうと考えました。そこで、地元のお菓子製造会社に相談して作って貰いました。「これは売れる、挑戦してみたい！」という気持ちになり起業しました。

Q…起業当時、一番嬉しかったことは何ですか？

起業時は、六人の女性スタッフでスタートしました。その六人は、求人広告やハローワークを見て、来てくれた人たちでした。

普通は誰でも、安定を求めて大きな会社や条件のいい会社に行こうと思うのですが、これから創業して仕事を始めようとしている私に可能性を感じ

じて、私と一緒に「仕事がしたい。」と来てくれたことが一番嬉しかったです。



Q…カステラやバウムクーヘンなどの製造方法や特徴を教えてください。

自社は烏骨鶏を持っているだけで、養鶏場や工場は持っていません。養鶏場を行っているところに委託して、自社の烏骨鶏を飼っていただいています。そこで生まれた卵は養鶏場から直接工場に持っていったもらい、その製菓工場でバウムクーヘンやカステラを製造してもらっています。

自社のバウムクーヘンは、チョコやシュガーなどのコーティングやフレーバーは一切使わず、甘味も押さえて卵の味だけで勝負しています。

Q…初めて商品を作ったとき、苦労されたことはありましたか？

私の想いと工場長の想いがぶつかり合って、私

の求めた物になるまで何回も何回も試作をして、形になるまで半年くらいかかりました。

また、カステラを常温で置いておくと、何日でものくらい菌数が増えるかとか、どのくらい保存ができるか、カロリー計算をして栄養分析の検査などもします。

パッケージについてもデザインして出来上がったものを三回、四回と修正をして、完成するのに半年から一年くらいかかりました。

Q…箱のデザインは、どのように考えられましたか。

主婦の方がターゲットで、「ちよつといいものを買いたいな」というお客さんに向けた高級感のある和柄を意識してデザインしています。

実は、パッケージのデザインは、素人ながら私がやりました。



Q…今後の目標を教えてください。

商品はいま、この直売店や県内外のサービスマリア、惣菜店、インターネットなどで販売しています。会社の景品としても使っていただいています。今後は、烏骨鶏本舗の商品を中国や香港、シンガポールなどの海外に売り込んでいこうと考えています。日本を飛び出して、海外へ自社の商品をもっていけたらいいと思っています。

また、関係している会社と一緒に「7月21日は烏骨鶏の日」を作りました。これも広めていきます。

Q…どんな学生時代を過ごされていましたか。

私は三人姉妹の末っ子でした。母親には「女の子は愛嬌さえあれば何とかなるから」や「勉強はどっちでもいいから」と言われ、挨拶と笑顔を叩き込まれました。なので、遊ぶのが好きで勉強が嫌いな学生時代でした。

Q…最後に今の高校生達に伝えたいことはありますか。

高校生の皆さんには、友達を一人でもたくさん作って、その友達を私ぐらいの歳になっても大切にしたいです。本当に私は人に助けられて今があります。ですから皆さんもお友達や先輩を大切にしてください。

もう一つ、うちのブランドをまねる会社が現れたのですが、切磋琢磨するという意味でライバルも必要です。なぜなら、基準が自分になると自分で満足してしまうからです。ライバルがいることで自分がより高められます。



【感想】

ニワトリに烏骨鶏という品種があることを知らなくて、このインタビューを通じて初めて知りました。その烏骨鶏の卵を使ってバウムクーヘンやカステラ、プリンなどのスイーツを作っているお店が大垣市にあることも知りませんでした。インタビューの後にお店のカタログを見てみると美味そうな商品が多くて、商品のパッケージやデザインはとてもおしゃれなものが多く、社長の石原さんの強い思いが伝わってきました。インタビューの中でも話をしていたように商品にかける「こだわり」を感じました。

生まれて初めてのインタビューでしたが、このプロジェクトを通じて「一つの物を作る」事の大変さを初めて知りました。非常に貴重な体験をさせていただいたと感じています。この体験を将来の就職や進学に生かせるように頑張りたいと思います。